

— 君津市 —

三直中郷遺跡第5地点

市道八重原線道路新設改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2022

君津市建設部
君津市教育委員会

—君津市—

みのうなかごう
三直中郷遺跡第5地点

市道八重原線道路新設改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2022

君津市建設部
君津市教育委員会

序 文

温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、県内2位の広大な面積を有する君津市には、多くの貴重な文化遺産が残されています。これらの文化遺産を後世へと伝え残してゆくことが、現代に生きる私たちの使命なのだと思います。

しかしながら、経済発展や利便化のための開発行為など現代人の働きによって、遺跡が破壊されてしまうことが多いのも実情です。このような状況のなか、開発と遺跡の保存についての解決策の一つとして講じているのが、事前に発掘調査を実施する「記録保存」という手段であります。

本報告書は、公共事業に伴い発掘調査を実施した三直中郷遺跡の成果をまとめた報告書です。対象となった三直中郷遺跡は、多数の木製品などが出土している古代の集落跡です。今回の調査では、古墳時代から奈良・平安時代にかけての遺構を確認しました。

本書が学術資料、教育資料として活用されるとともに、市民をはじめ多くの皆様の目にとまり、遺跡というものがごく身近にも存在しているのだということを認識していただく契機となり、埋蔵文化財の保護を推進することができれば幸いです。

結びに、ご指導・ご助言いただきました千葉県教育庁教育振興部文化財課、発掘調査・整理作業に従事した調査補助員の方々、ご協力いただいた地域の方々、関係者の皆様に対して、心から感謝の意を表します。

令和4年3月

君津市教育委員会
教育長 粕谷 哲也

例 言

- 1 本書は、平成30～令和3年度調査実施の千葉県君津市三直字本郷356番2ほかの所在する三直中郷遺跡第5地点の成果を収録した、発掘調査報告書である。
- 2 調査は、千葉県教育委員会の指導のもと、君津市教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査・整理作業期間は以下のとおりである。
(確認調査) (1) 平成30年9月7日～同年10月11日
(4) 令和3年6月21日～同年6月30日
(本調査) (1) 平成31年1月15日～同年3月6日
(2) 令和元年11月14日～令和2年1月9日
(3) 令和3年1月25日～同年2月17日
(整理作業) 令和4年2月1日～同年2月28日
- 4 発掘調査は、(1)・(2)は朝倉 唯、(3)・(4)は曾我真実子、整理作業・原稿執筆は曾我が担当した。
- 5 発掘調査で使用した遺跡コードは、三直中郷遺跡：KT 073である。なお、遺物注記の際には、コードの次に調査地点を付した(例：KT 073-5)。
- 6 遺構・遺物の縮尺は各実測図に明記した。方位は座標北であり、測量値は世界測地系による。
- 7 今回の調査に伴う遺物・図面・写真等の記録類は、君津市教育委員会が保管する。
- 8 調査組織は下記のとおりである。
《君津市教育委員会》
教育長：山口喜弘(令和2年度6月まで) 粕谷哲也(令和2年度7月から)
教育部長：加藤美代子(令和元年度まで) 安部吉司(令和2年度から)
生涯学習文化課長：矢野淳一(令和2年度まで) 塚越直美(令和3年度から)
副主幹(事)文化振興係長：當眞紀子(再)主査：矢野淳一(令和3年度から)
文化財主事：朝倉 唯 文化財主事：曾我真実子
- 9 発掘調査から本書の刊行にいたるまで、千葉県教育委員会をはじめとする関係諸機関の方々からご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。

凡 例

- 1 本書で使用した地形図は、第1図 地形図「鹿野山」(1:25,000)国土院発行、第2図 君津市地形図2(1:10,000)君津市発行である。
- 2 遺構番号は各遺構ごとに通して番号を付した。
- 3 調査区ごとに一括して記載した遺物については、番号脇の()内に遺構番号を記した。
- 4 本文中に記載した遺構の重複関係は(旧)→(新)の順に記載した。

目 次

序 文・例 言・凡 例

第1章 はじめに	1	第2章 調査成果	8
----------	---	----------	---

挿図目次

第1図 周辺の遺跡(1:25,000)	2	第7図 平成30年度本調査断面図及び 遺物実測図	11
第2図 調査区位置図(1:10,000)	5	第8図 令和元年度本調査遺構実測図(1)	13
第3図 基本土層図	6	第9図 令和元年度本調査遺構実測図(2)	14
第4図 確認調査結果	7	第10図 令和元年度本調査遺物実測図	15
第5図 本調査範囲	8	第11図 令和2年度本調査遺構実測図	18
第6図 平成30年度本調査遺構実測図	10	第12図 令和2年度本調査遺物実測図	19

表目次

表1 平成30年度本調査ピット観察表	12
表2 令和元年度本調査ピット観察表	16
表3 令和2年度本調査ピット観察表	19

図版目次

図版1～3

第1章 はじめに

1 調査にいたる経緯

平成30年7月18日付け30君道建第72号で、君津市長より文化財保護法第94条に基づく「埋蔵文化財発掘の通知について」の提出があった。開発目的は市道八重原線道路新設改良工事で、開発予定面積は7,907.28㎡である。開発区域は「周知の埋蔵文化財包蔵地内（三直中郷遺跡）」で、開発着手前に確認調査を実施する必要がある旨を市建設部道路建設課に説明した。協議の結果、計画どおり事業を行うことになり、遺跡の規模及び性格を把握するための確認調査を実施することとした。確認調査は、事業地の都合で、平成30年9月7日から同年10月11日まで及び令和3年6月21日から同年6月30日までの2回に分けて行った。

確認調査の結果、古墳時代から中世までの溝跡及び土坑、ピットが検出されたため、市建設部道路建設課と市教育委員会生涯学習文化課とで再度協議を行い、埋蔵文化財をどうしても保存することができない部分については、本調査を行うこととした。本調査は、事業地の都合で3回に分けて実施した。1回目が平成31年1月15日から同3月6日まで、2回目が令和元年11月14日から令和2年1月9日まで、3回目が令和3年1月25日から同年2月17日まで行った。なお、調査はすべて君津市教育委員会で行った。

2 地理的・歴史的環境（第1図）

三直中郷遺跡は、君津市三直に所在する包蔵地で、JR内房線君津駅から南東約4.5km入った地点に位置する。三直中郷遺跡は、小糸川の中流域北岸に位置し、小糸川によって形成された沖積地と、その後背湿地との間に立地している。標高は自然堤防部分で20m前後、後背湿地部分で17m前後である。

三直中郷遺跡周辺の後背湿地においては、永らく小区画の水田耕作が行われていたが、近年の圃場整備事業等によって大区画に整備された。また、平成15年4月、館山自動車道君津インターチェンジの開通や、周辺施設等も建ち並び、現在の景観となっている。

三直中郷遺跡の所在するこの地域は遺跡が密集して所在している。旧石器時代では、立川ロームV層から剥片が出土した、7. 畑沢遺跡⁽¹⁾・50. 星谷上古墳⁽¹⁾がある。縄文時代では、後期～晩期の大型竪穴住居跡や環状盛土遺構が検出された10. 三直貝塚⁽²⁾がある。弥生時代では、本遺跡から南西2kmに36. 常代遺跡⁽³⁾がある。常代遺跡は、中期の方形周溝墓や水路跡が検出されたほか、水稲耕作に用いた多数の木製品が出土しており、東関東の稲作文化を知る上での基礎資料となる遺跡である。また、小糸川対岸の丘陵上、本遺跡から南1.8kmの41. 鹿島台遺跡⁽⁴⁾では、中期の環濠や方形周溝墓、多数の竪穴住居跡が検出されている。古墳時代では、本遺跡から北西1kmには4. 道祖神裏古墳⁽⁵⁾、本遺跡の北側には19. 沖入古墳がある。いずれも前期の前方後方墳である。これらに続く古墳では、横堀鎌留短甲が2領出土した中期のM. 八重原古墳群⁽⁶⁾、盾形の周溝を有する後期の前方後円墳である14. 八幡神社古墳⁽⁷⁾がある。古墳時代の低地の集落跡では24. 泉遺跡⁽⁸⁾、豪族の屋敷跡と推定される40. 郡遺跡⁽⁹⁾があ



- | | | | | |
|------------|-------------|-------------|------------|--------------|
| 1. 三重中郷遺跡 | 2. 天王台遺跡 | 3. 上村台遺跡 | 4. 道祖神裏古墳 | 5. 外箕輪上ノ台古墳 |
| 6. 九十九坊台遺跡 | 7. 畑沢遺跡 | 8. 馬木戸里谷上古墳 | 9. 三重A行人塚 | 10. 三重貝塚 |
| 11. 三重城跡 | 12. 蔵屋敷跡 | 13. 蔵屋敷塚 | 14. 八幡神社古墳 | 15. 三重台古墳 |
| 16. 沖入塚 | 17. 沖入2号塚 | 18. 沖入遺跡 | 19. 沖入古墳 | 20. 外箕輪遺跡 |
| 21. 奥谷横穴 | 22. 柏木遺跡 | 23. 寺崎遺跡 | 24. 泉遺跡 | 25. 姥田遺跡 |
| 26. 神裏塚古墳 | 27. 熊野前古墳 | 28. 狐山古墳 | 29. 狐山岩跡 | 30. 川代台遺跡 |
| 31. 奥中谷塚 | 32. 常代神社古墳 | 33. 常代城跡 | 34. 浜子古墳 | 35. 浜子遺跡 |
| 36. 常代遺跡 | 37. 八幡権現塚 | 38. 郡糸里遺跡 | 39. 郡西遺跡 | 40. 郡遺跡 |
| 41. 鹿島台遺跡 | 42. 天神台遺跡 | 43. 高間屋敷跡 | 44. 西谷遺跡 | 45. 南子安金井崎遺跡 |
| 46. 泉南田遺跡 | 47. 泉鍛冶屋前遺跡 | 48. 埜田遺跡 | 49. 竹際遺跡 | 50. 星谷上古墳 |
| 51. 白山裏古墳 | | | | |
| A. 大山越古墳群 | B. 三重B行人塚群 | C. 下新田古墳群 | D. 常代谷横穴群 | E. 八幡神社古墳群 |
| F. 奥中谷古墳群 | G. 六手中谷横穴群 | H. 鹿島台古墳群 | I. 浜子横穴群 | J. 浜子中谷横穴群 |
| K. 中谷古墳群 | L. 西山古墳群 | M. 八重原古墳群 | | |

※番号に○印のあるものは、すでに消滅

第1図 周辺の遺跡 (1:25,000)

る。奈良・平安時代では、20. 外箕輪遺跡⁽¹⁰⁾や九十九坊廃寺に近接する45. 南子安金井崎遺跡⁽¹¹⁾がある。南子安金井崎遺跡では掘立柱建物跡や製鉄跡、瓦、墨書土器が出土しており、九十九坊廃寺関連遺跡とされている。中世になると11～14世紀代の掘立柱建物跡などの遺構が20. 外箕輪遺跡、24. 泉遺跡、40. 郡遺跡、36. 常代遺跡で検出されている。小糸川中流域の低地では古墳時代から、中世まで居住域が

継続していたことがわかる。

- 註 (1) 『星谷上古墳・畑沢遺跡(第2次調査)』1989 財団法人君津都市文化財センター
- (2) 『東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書7-君津市三直貝塚-』
2006 財団法人千葉県教育振興財団
『平成15年度 君津市内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』2004 君津市教育委員会
- (3) 『常代遺跡群確認調査報告書』1989 君津市教育委員会
『常代遺跡群』1996 財団法人君津都市文化財センター
『常代遺跡Ⅱ』1998 財団法人君津都市文化財センター
『国道127号 埋蔵文化財調査報告書-君津市常代遺跡六反免地区、郡条里遺跡、郡遺跡(2)、郡遺跡(3)、
小山野遺跡-』2004 財団法人千葉県文化財センター
- (4) 『東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書5-君津市鹿島台遺跡(A区・D区)-』
2006 財団法人千葉県教育振興財団
『東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書12-君津市鹿島台遺跡(C区)-』2009
財団法人千葉県教育振興財団
『東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書13-君津市鹿島台遺跡(B区)-』2011
財団法人千葉県教育振興財団
『平成26年度 君津市内遺跡発掘調査報告書』2015 君津市教育委員会
『令和元年度 君津市内遺跡発掘調査報告書』2020 君津市教育委員会
- (5) 『千葉県の歴史 資料編考古2(弥生・古墳時代)』2003 千葉県
- (6) 杉山晋作他 『古墳時代研究Ⅲ-千葉県君津市所在八重原1号墳・2号墳の調査-』1989 古墳時代研究会
- (7) 『君津市外箕輪遺跡・八幡神社古墳調査報告書』1989 財団法人千葉県文化財センター
- (8) 『泉遺跡発掘調査報告書Ⅰ』1996 財団法人君津都市文化財センター
『泉遺跡発掘調査報告書Ⅱ』1996 財団法人君津都市文化財センター
『平成12年度 君津市内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』2001 君津市教育委員会
『泉遺跡Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ』2011 君津市教育委員会
- (9) 『郡遺跡確認調査報告書』1988 君津市教育委員会
『君津市郡遺跡発掘調査報告書』1991 財団法人千葉県文化財センター
『郡遺跡群発掘調査報告書Ⅰ』1994 君津市教育委員会
『郡遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』1996 財団法人君津都市文化財センター
- (10) 『君津市外箕輪遺跡・八幡神社古墳発掘調査報告書』1989 財団法人千葉県文化財センター
『外箕輪遺跡発掘調査報告書』1994 財団法人君津都市文化財センター
『外箕輪遺跡Ⅱ』1997 財団法人君津都市文化財センター
『外箕輪遺跡Ⅲ』1997 財団法人君津都市文化財センター
『年報No.17-平成10年度-』1999 財団法人君津都市文化財センター
『平成19年度 君津市内遺跡発掘調査報告書』2008 君津市教育委員会

『外笈輪道跡V』2008 君津市教育委員会

『外笈輪道跡VI』2009 君津市教育委員会

『外笈輪道跡VII』2010 君津市教育委員会

『平成30年度君津市内発掘調査報告書』2019 君津市教育委員会

『外笈輪道跡XI』2021 君津市教育委員会

(11)『南子安金井崎遺跡』1996 財団法人君津郡市文化財センター

参考文献

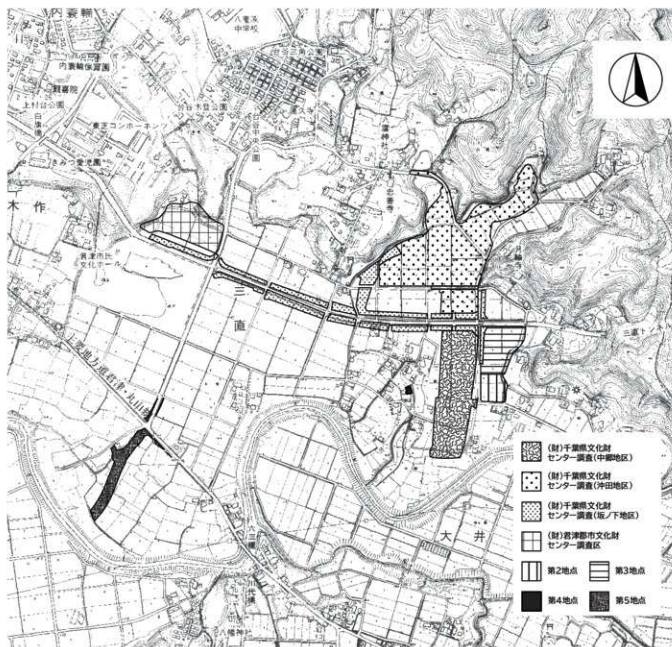
『千葉県埋蔵文化財分布地図(4)－君津・夷隅・安房地区(改訂版)－』2000 千葉県教育委員会

3 遺跡の概要(第2図)

三直中郷遺跡内では、平成9年度から13年度の間に開発に伴う発掘調査が実施され、報告書が刊行されている。これまでの発掘調査の成果をみても、財団法人千葉県文化財センターが実施した館山自動車道建設と主要地方道君津鴨川線道路改良工事に伴うものが大きい。館山自動車道建設に伴う調査区は、沖田地区⁽¹⁾、中郷地区⁽¹⁾、主要地方道君津鴨川線道路改良工事に伴う調査区を坂ノ下地区⁽²⁾としている。沖田地区では、縄文時代晩期の伐採根、弥生時代中期の溝状遺構1条、古墳時代前期の溝状遺構1条、土器散布地点2か所、奈良・平安時代の畦畔、田下駄等の木製品が多数出土している。中郷地区では、弥生時代の竪穴住居跡3軒、古墳時代の竪穴住居跡2軒・土坑4基・溝状遺構、奈良・平安時代では、竪穴住居跡1軒・掘立柱建物跡16棟・井戸・土坑18基・溝状遺構、中近世の掘立柱建物跡43棟・井戸・土坑18基・溝状遺構が検出され、奈良・平安時代以降には自然堤防上に建物群や井戸等がみられる。坂ノ下地区では、古墳時代～中世の溝状遺構37条、大足・輪カンジキ等の木製品が多数出土している。平成12年度には、本遺跡西側縁を財団法人君津郡市文化財センターが発掘調査⁽³⁾を実施した。三直インターチェンジ建設に伴う周辺拠点施設建設に伴う調査で、弥生時代の水路1条、奈良・平安時代以前の水田1面、奈良・平安時代の水田1面、また畦畔も検出している。第2地点⁽⁴⁾では、掘立柱建物跡2棟、土坑11基、溝状遺構6条、ピットが検出された。第3地点⁽⁵⁾では、掘立柱建物跡1棟、土坑などが検出され、遺構の検出状況から集落域と後背湿地の境界地点の可能性を指摘している。第4地点⁽⁶⁾では、遺構・遺物は検出されていない。

これらの成果から、三直中郷遺跡では自然堤防上に居住域が展開し(中郷地区・第2地点)、後背湿地部分は水田等の生産域として利用され、その結果、多量の木製品が出土するという傾向が見て取れる。また、後背湿地部では古代の水田の畦畔が検出されており、小糸川中流域に所在する外笈輪道跡等を含む広範囲にわたって、条里地割を考えるうえでの重要な成果である。

註 (1)『東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書4－君津市三直中郷遺跡(沖田地区・中郷地区)－』2005 財団法人千葉県文化財センター第522集



第2図 調査区位置図 (1 : 10,000)

(2) 『主要地方道君津鴨川線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—三直中郷遺跡 坂ノ下地区—』

2003 財団法人千葉県文化財センター第 453 集

(3) 『三直中郷遺跡発掘調査報告書』2001 財団法人君津都市文化財センター第 168 集

(4) 『三直中郷遺跡第2地点』2006 君津市教育委員会

(5) 『三直中郷遺跡第3地点』2006 君津市教育委員会

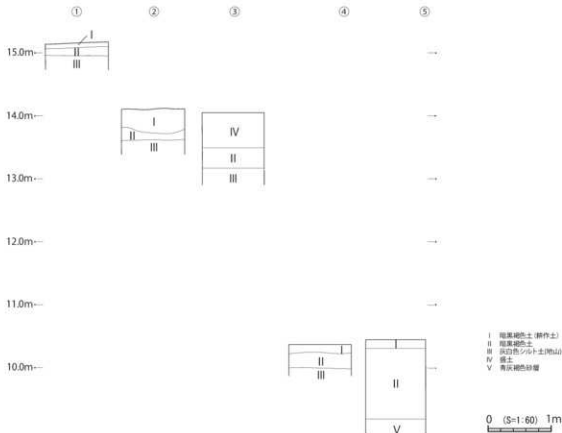
(6) 『平成25年度 君津市内遺跡発掘調査報告書』2014 君津市教育委員会

4 調査の方法（第3・4図）

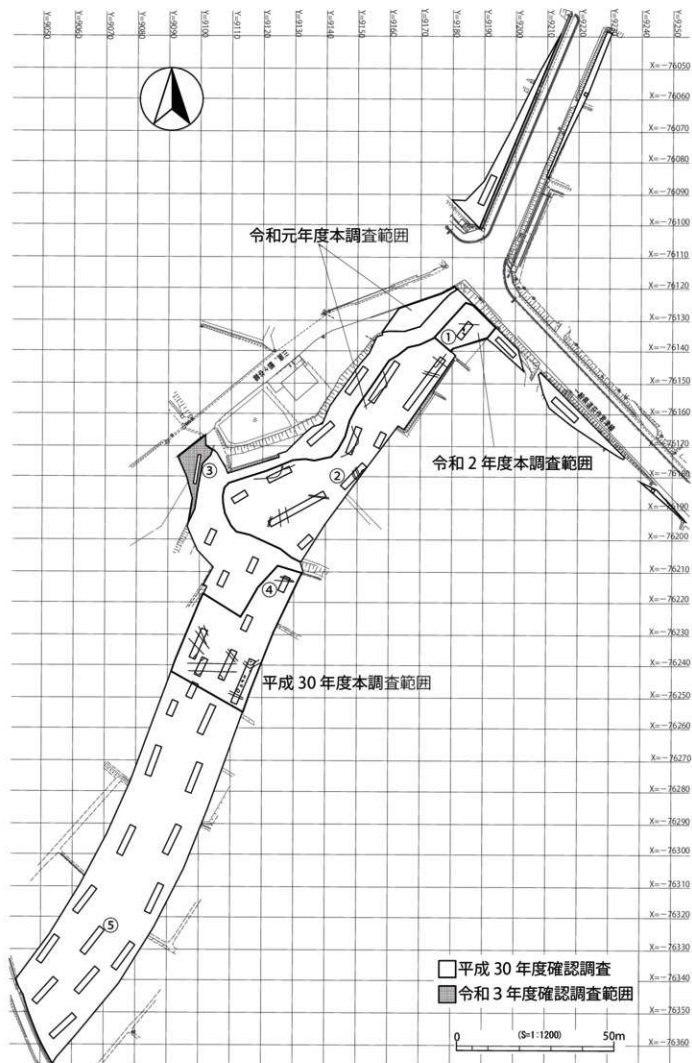
確認調査は、事業地の都合により、平成30年度及び令和3年度の2回に分けて実施した。対象地内における遺構の分布と種別を把握するために、対象地7,907.28㎡を平成30年度は7,803.84㎡に41本、令和3年度は103.44㎡に1本のトレンチを設定した。調査区域の現状は水田である。調査を実施するにあたり、公共座標に基づく基準点測量は専門業者が行い、この杭を用いて現地での平面図・断面図等の実測作業を行った。写真撮影はデジタルカメラを使用した。遺構確認面までの表土を重機で除去した後、鋤簾を用いて人力により遺構検出作業を行った。確認調査の結果、古墳時代の溝跡・土坑・ピット、奈良・平安時代の溝跡、中世の溝跡などが検出されたため、埋蔵文化財をどうしても保存することができない部分については、本調査を実施することとなった。遺構確認面までの表土は重機により除去し、遺構検出作業と覆土の掘り下げは人力で行った。調査終了後は重機により排土を埋め戻して原状復帰し、現地作業を終了した。

5 基本土層（第3図）

現況は水田である。基本土層は①～⑤で記録した。現況に高低差があり、確認面についても同様の結果となった。地山層はⅢ層の灰白色シルト層で、①～④で確認した。地山層は現地表面から0.2m～0.9mで検出する。⑤では、地山層は確認できず、トレンチ掘削時に湧水があった。地山層を検出した①と④で高低差が約5.0mあり、調査区南側の小系川に向かって下がっていく地形であることがわかった。



第3図 基本土層図



第4図 確認調査結果

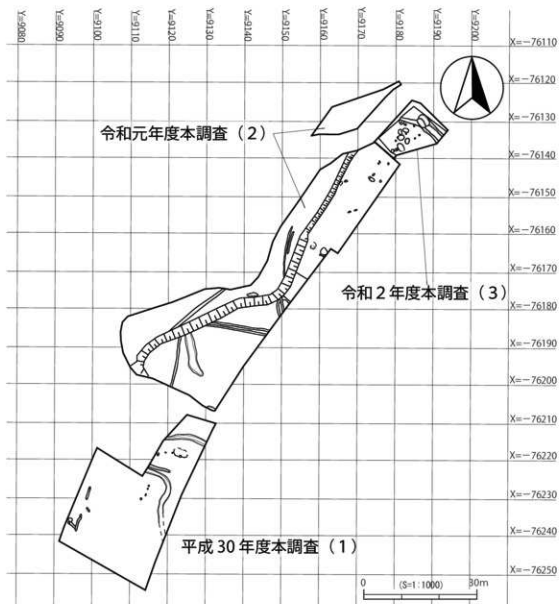
第2章 調査成果

1 確認調査（第4図）

事業地の都合で確認調査は2回に分けて実施した。①②④では、確認面が検出され、③では、確認面ままで削平を受けて上部に盛土がされていた。また、調査区南側では、青灰褐色砂質土が検出され、確認面は見つからなかった。確認調査の結果から、小糸川に近い南側は沼沢地の様相、北側は遺構は確認されたが分布密度は希薄であることが判明した。

2 本調査（第5～12図）

本調査は3回に分けて実施した。各調査区ごとに報告する。各調査箇所の詳細は第5図のとおりである。



第5図 本調査範囲

(1) 平成 30 年度本調査 (第 6・7 図、表 1)

溝跡

SD-001 (第 6・7 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅 0.8～1.7 m、深さ 0.24～0.34 m、検出部分の長さは 11.2 m。南東-西方向に弧状に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。1 は土師器坏の口縁部から底部片である。遺存高 3.8 cm。摩耗激しく調整不明。焼成は不良。色調は橙色。胎土は砂粒、白色粒を含む。2 は土師器坏の口縁部から底部片である。遺存高 3.1 cm。摩耗激しく調整不明。焼成は不良。色調は橙色。胎土は細かい砂粒、赤色粒を含む。3 は土師器坏で、口縁部片である。摩耗激しく調整不明。焼成は不良。色調は橙色。胎土は砂粒、白色粒を含む。4 は土師器甕の口縁部から胴部片である。調整は内外面ともにヘラナデ。焼成はやや良好。色調は橙色。胎土は砂粒、赤色粒を含む。5 は土師器甕の口縁部片である。摩耗激しく調整不明。焼成は不良。色調は橙色。胎土は砂粒、小礫を含む。6 は土師器高坏の脚部 1/3 の遺存である。遺存高 3.4 cm。摩耗激しく調整不明だが、外面に赤彩を確認できる。焼成はやや良好。色調は橙色。胎土は砂粒、小礫、雲母を含む。7 は土師器甕の頸部から胴部片である。調整は内面ナデ。外面ヘラケズリ。焼成はやや良好。色調は明褐色。胎土は赤色粒、小石を含む。8 は須恵器甕の胴部片である。調整は外面平行タタキ。焼成は良好。色調は灰白色。胎土は砂粒、白色粒を含む。

SD-002 (第 6 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅 0.8 m、深さ 0.5 m、検出部分の長さは 5.9 m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

SD-003 (第 6・7 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅 1.2～1.6 m、深さ 0.8～0.32 m、検出部分の長さは 18.0 m。南-北西方向に曲がる溝で、断面形は U 字状である。

SD-004 (第 6・7 図)

重複関係 SD-005、P-10 → SD-004

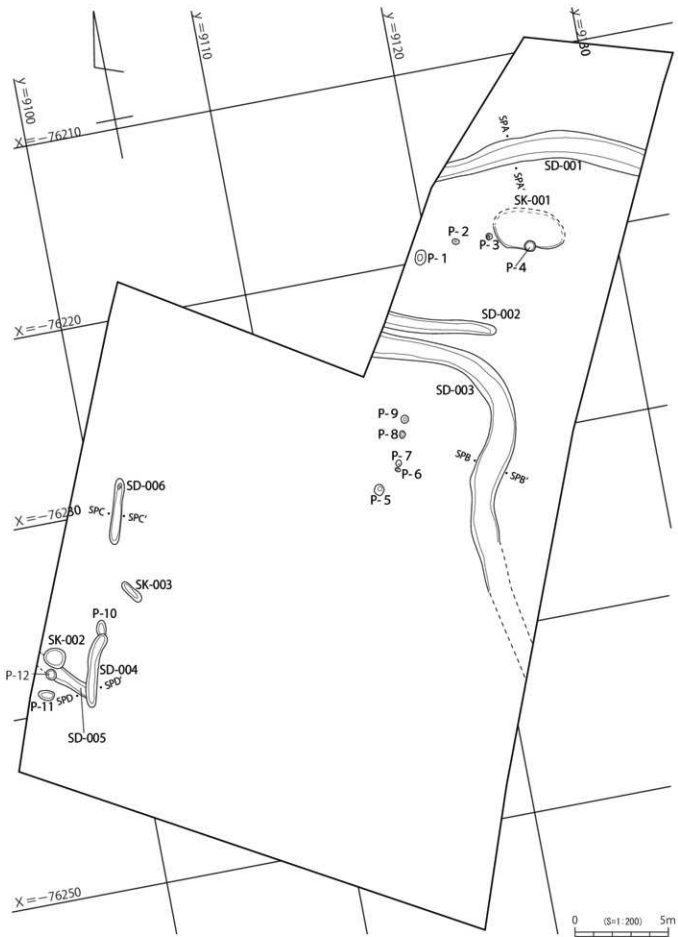
規模・形態・構造 幅 0.6～0.7 m、深さ 0.28 m、検出部分の長さは 4.0 m。南-北東方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

SD-005 (第 6・7 図)

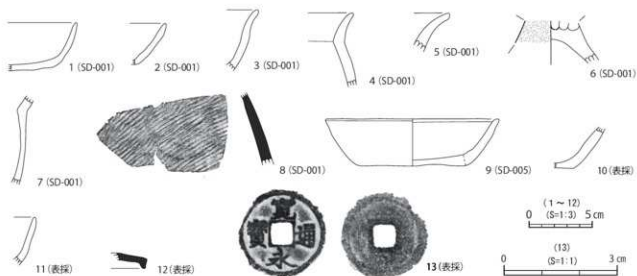
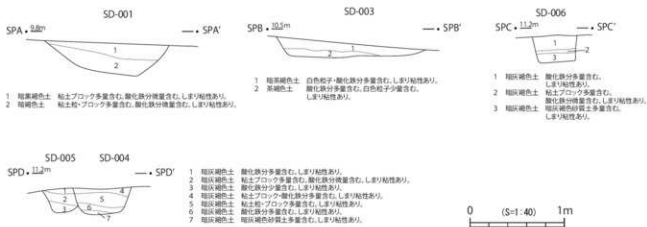
重複関係 SD-005 → SD-004、SK-012、P-12

規模・形態・構造 幅 0.7～0.8 m、深さ 0.21～0.26 m、検出部分の長さは 2.0 m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は U 字状である。

遺物 土師器が出土した。9 は土師器坏の口縁部から底部 4/5 の遺存である。口径 13.5 cm、底径 8.6 cm、器高 3.7 cm。摩耗激しく調整不明。焼成はやや不良。色調は浅黄橙色。胎土は砂粒、赤色粒、小礫を含む。



第6図 平成30年度本調査遺構実測図



第7図 平成30年度本調査断面図及び遺物実測図

SD-006(第6・7図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅0.4～0.6m、深さ0.28m、検出部分の長さは3.5m。南西-北東方向に走る溝で、北東端にビット状の掘り込みをもつ。断面形は箱状である。

土坑

SK-001(第6図)

重複関係 SK-001→P-4

規模・形態・構造 検出部分の長軸3.8m、検出部分の短軸2.0m、深さ0.01m。平面形は楕円形である。断面形は皿状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SK-002(第6図)

重複関係 SD-005→SK-002

規模・形態・構造 直径1.2m、深さ0.43m。平面形は円形である。断面形は逆台形状である。

SK-003(第6図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸1.4m、短軸0.4m、深さ0.2m。平面形は楕円形である。断面形は皿状である。

ピット(第6図)

詳細は、表1にまとめた。

遺構	重複関係	規模	平面形	柱状の有無	出土遺物	備考
P-1	なし	長軸0.8m、短軸0.6m、深さ0.23m	楕円形	無	なし	第6図
P-2	なし	直径0.3～0.4m、深さ0.1m	円形	無	なし	第6図
P-3	なし	直径0.38m、深さ0.58m	円形	有	土師器	第6図
P-4	SK-001→P-4	直径0.6m、深さ0.06m	円形	無	土師器	第6図
P-5	なし	直径0.5～0.6m、深さ0.43m	円形	無	なし	第6図
P-6	なし	長軸0.3m、短軸0.18m、深さ0.43m	楕円形	無	なし	第6図
P-7	なし	直径0.35～0.4m、深さ0.5m	円形	無	なし	第6図
P-8	なし	長軸0.3m、短軸0.45m、深さ0.5m	楕円形	無	なし	第6図
P-9	なし	直径0.4m、深さ0.54m	円形	無	なし	第6図
P-10	P-10→SD-004	検出部分の長軸0.7m、短軸0.5m、深さ0.35m	楕円形	無	なし	第6図
P-11	なし	長軸0.8m、短軸0.5m、深さ0.2m	楕円形	無	なし	第6図
P-12	SD-005→P-12	直径0.6m、深さ0.15m	円形	無	なし	第6図

表1 平成30年度本調査ピット観察表

その他出土遺物(第7図)

表探遺物を報告する。10は土師器杯の体部から底部片である。遺存高3.1cm。摩耗激しく調整不明。焼成は不良。色調は橙色。胎土は砂粒、白礫を含む。11は土師器杯の口縁部から体部片である。ロクロ成形。焼成は良好。色調はにぶい黄橙色。胎土は砂粒、赤色粒、雲母を含む。12は須恵器蓋の口縁部から体部片である。ロクロ成形。焼成はやや良好。色調は灰白色。胎土は砂粒、白色粒を含む。13は寛永通宝である。直径2.35cm、孔一辺0.55cm、重量2.72g。

(2) 令和元年度本調査(第8～10図、表2)

溝跡

SD-007(第9図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅0.5～0.7m、深さ0.23m、検出部分の長さは13.2m。南西-北方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

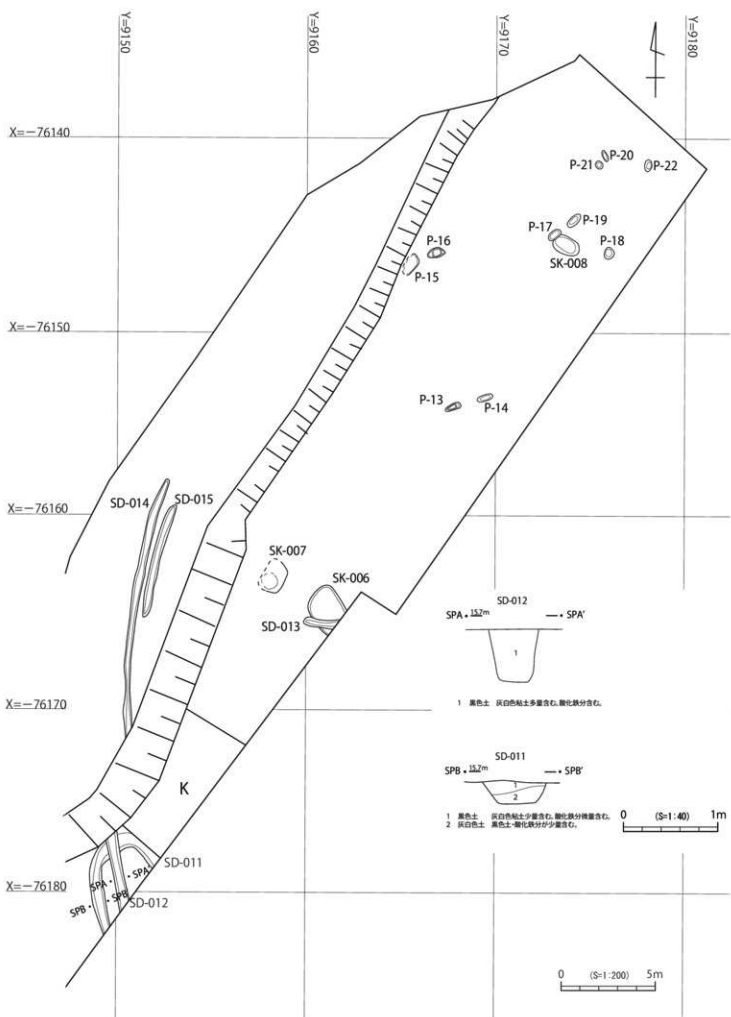
遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-008(第9・10図)

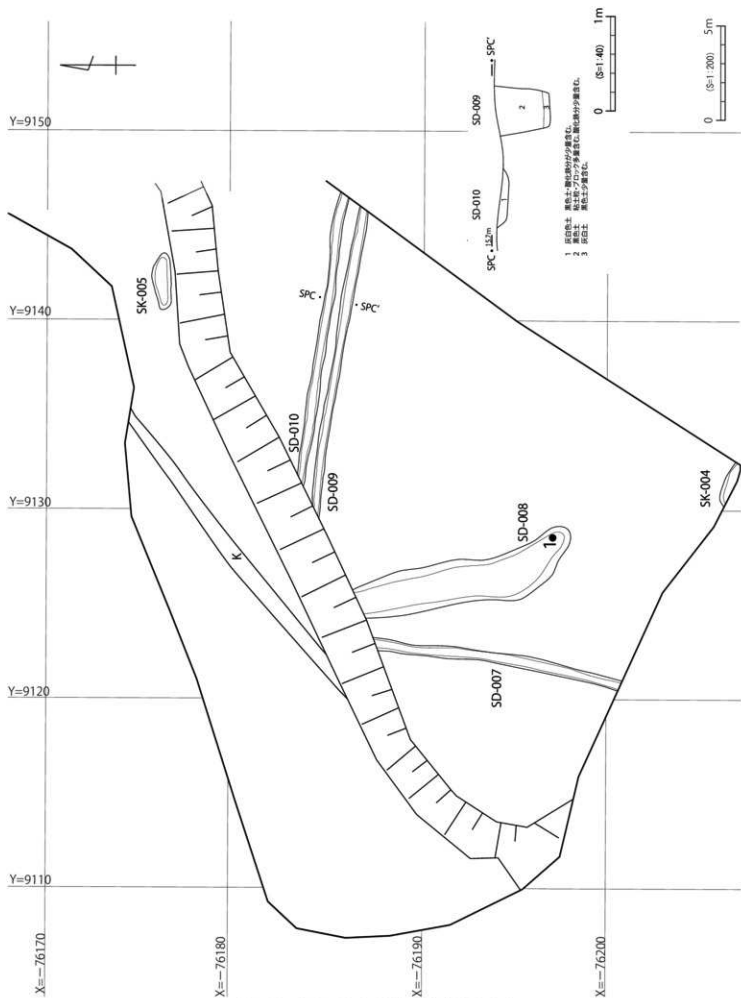
重複関係 なし

規模・形態・構造 幅1.7～2.5m、深さ0.12m、検出部分の長さは12.3m。南東-北方向に蛇行して走る溝で、断面形は皿状である。

遺物 1は碧玉の玉で、ほぼ完形である。最大長1.6cm、最大幅0.8cm、孔0.18～0.3cm、重量0.58g。片面穿孔。片側に4つの刻みがある。



第8図 令和元年度本調査遺構実測図(1)



第9図 令和元年度本調査遺構実測図(2)



第10図 令和元年度本調査遺物実測図

SD-009 (第9図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅0.4～0.6 m、深さ0.6 m、検出部分の長さは16.3 m。南東―北西方向に走る溝で、断面形は箱状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-010 (第9図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅0.4～0.6 m、深さ0.25 m、検出部分の長さは15.4 m。南東―北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-011 (第8図)

重複関係 SD-011→SD-012

規模・形態・構造 幅0.6～1.0 m、深さ0.25 m、検出部分の長さは7.6 m。南東―北―南東方向にU字状に走る溝で、断面形は逆台形状である。

SD-012 (第8図)

重複関係 SD-011→SD-012

規模・形態・構造 幅0.5～0.7 m、深さ0.55 m、検出部分の長さは3.8 m。南東―北方向に走る溝で、断面形は箱状である。

SD-013 (第8図)

重複関係 SK-006→SD-013

規模・形態・構造 幅0.4～0.6 m、深さ0.45 m、検出部分の長さは1.7 m。東―西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-014 (第8図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅0.38～0.5 m、深さ0.13 m、検出部分の長さは13.5 m。南―北東方向に弧状に走る溝で、断面形は皿状である。

SD-015 (第8図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅0.5 m、深さ0.1 m、検出部分の長さは6.3 m。南―北東方向に走る溝で、断面形は

皿状である。

土坑

SK-004(第9図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 検出部分の長軸 2.3 m、検出部分の短軸 0.6 m、深さ 0.1 m。平面形は楕円形が想定される。断面形は皿状である。

SK-005(第9図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸 3.0 m、短軸 1.0 m、深さ 0.1 m。平面形は不整な楕円形である。断面形は皿状である。

SK-006(第8図)

重複関係 SK-006→SD-013

規模・形態・構造 検出部分の長軸 2.0 m、短軸 1.8 m、深さ 0.1 m。平面形は長方形が想定される。断面形は逆台形状である。

SK-007(第8図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸 1.7 m、検出部分の短軸 0.8 m、深さ 0.07 m。平面形は長方形である。断面形は皿状である。

SK-008(第8図)

重複関係 SK-008→P-17

規模・形態・構造 長軸 1.5 m、短軸 0.9 m、深さ 0.08 m。平面形は楕円形である。断面形は皿状である。

ピット(第8図)

詳細は、表2にまとめた。

遺構	重複関係	規模	平面形	柱成の有無	出土遺物	備考
P-13	なし	長軸0.8 m、短軸0.3 m、深さ0.16 m	楕円形	無	なし	第8図
P-14	なし	長軸0.9 m、短軸0.3 m、深さ0.12 m	楕円形	無	なし	第8図
P-15	なし	長軸1.3 m、検出部分の短軸0.3 m、深さ0.04 m	楕円形	無	なし	第8図
P-16	なし	長軸1 m、短軸0.5 m、深さ0.07 m	楕円形	有	なし	第8図
P-17	SK-008→P-17	長軸0.8 m、短軸0.4 m、深さ0.2 m	楕円形	無	なし	第8図
P-18	なし	直径0.5 m、深さ0.08 m	円形	無	なし	第8図
P-19	なし	長軸0.9 m、短軸0.45 m、深さ0.25 m	楕円形	無	なし	第8図
P-20	なし	長軸0.6 m、短軸0.3 m、深さ0.16 m	楕円形	無	なし	第8図
P-21	なし	直径0.4 m、深さ0.17 m	円形	無	なし	第8図
P-22	なし	長軸0.6 m、短軸0.35 m、深さ0.09 m	楕円形	無	なし	第8図

表2 令和元年度本調査ピット観察表

その他出土遺物(第10図)

表採遺物を報告する。2は縄文土器片である。摩耗激しく詳細は不明だが、羽状縄文を施した後、2条の沈線を施す。焼成はやや不良。色調は内面オリーブ黒色、外面にぶい褐色。胎土は細かい砂粒、白色粒、雲母を含む。

(3) 令和2年度本調査(第11・12図、表3)

溝跡

SD-016(第11図)

重複関係 SK-009 → SD-016 → SK-010

規模・形態・構造 幅0.6～1.4m、深さ0.23～0.34m、検出部分の長さは12.6m。南東-北西方向に弧状に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-017(第11図)

重複関係 SD-017 → SK-011

規模・形態・構造 幅0.6～1.1m、深さ0.18～0.29m、検出部分の長さは6.9m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

土坑

SK-009(第11図)

重複関係 SK-009 → SD-016

規模・形態・構造 検出部分の長軸1.1m、短軸1.35m、深さ0.29m。平面形は楕円形が想定される。底面にビット状の掘り込みをもつ。断面形は皿状である。

SK-010(第11図)

重複関係 SD-016、SK-011 → SK-010

規模・形態・構造 長軸2.9m、短軸1.6m、深さ0.35m。平面形は楕円形である。断面形は逆台形状である。

SK-011(第11・12図)

重複関係 SD-017 → SK-011 → SK-010

規模・形態・構造 長軸3.5m、検出部分の短軸1.7m、深さ0.36m。平面形は楕円形である。断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。1は須恵器甕の胴部片である。調整は内面あて具痕。外面ハケ状工具でナデ。焼成は良好。色調は内面灰色、外面暗灰色。胎土は砂粒、粗い小礫、白色粒を含む。

SK-012(第11図)

重複関係 SK-012 → P-28

規模・形態・構造 長軸1.7m、短軸1.4m、深さ0.15m。平面形は楕円形である。断面形は皿状である。

SK-013(第11図)

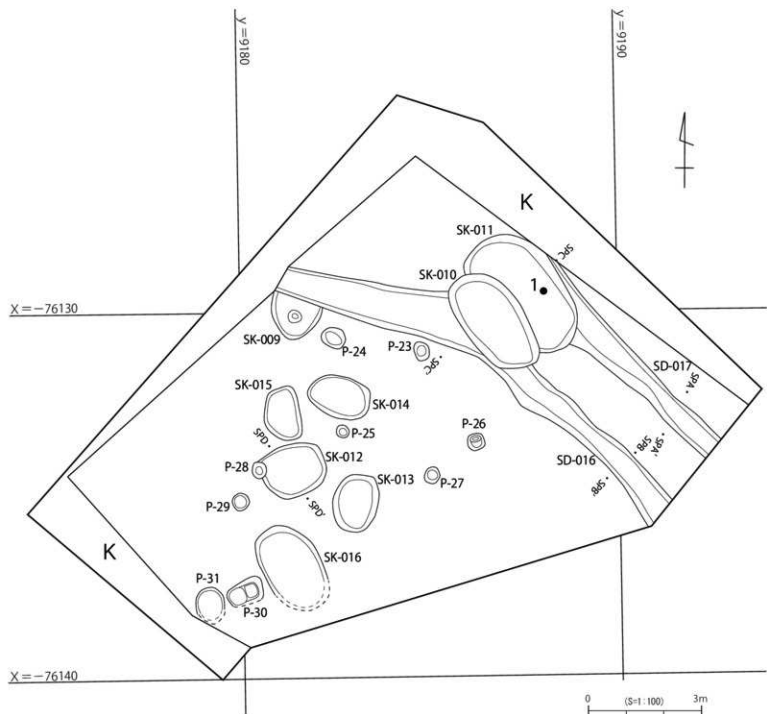
重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸1.5m、短軸1.2m、深さ0.2m。平面形は楕円形である。断面形は皿状である。

SK-014(第11図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸1.7m、短軸1.1m、深さ0.15m。平面形は楕円形である。断面形は皿状である。



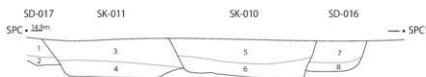
- 1 暗黒褐色土 粘土粒含む、しまり粘性あり。
- 2 灰褐色粘土 黒色粒含む、しまり粘性あり。



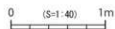
- 1 暗黒褐色土 粘土粒含む、しまり粘性あり。
- 2 灰褐色粘土 黒色粒含む、しまり粘性あり。



- 1 暗黒褐色土 粘土粒含む、しまり粘性あり。
- 2 灰褐色粘土 黒色粒含む、しまり粘性あり。



- 1 黒褐色土 粘土粒含む、しまり粘性あり。
- 2 暗黒褐色土 粘土ブロック含む、しまり粘性あり。
- 3 黒褐色土 腐化層分、粘土粒含む、しまり粘性あり。
- 4 暗黒褐色土 腐化層分、粘土ブロック含む、しまり粘性あり。
- 5 黒褐色土 腐化層分含む、粘土粒少量含む、しまり粘性あり。
- 6 暗黒褐色土 粘土ブロック粒含む、しまり粘性あり。
- 7 黒褐色土 粘土ブロック粒含む、しまり粘性あり。
- 8 黒褐色土 粘土ブロック含む、しまり粘性あり。



第 11 図 令和 2 年度本調査遺構実測図



第12図 令和2年度本調査遺物実測図

SK-015(第11図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸1.4 m、短軸1.0 m、深さ0.13 m。平面形は不整な長方形である。断面形は皿状である。

SK-016(第11図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 検出部分の長軸1.8 m、短軸1.5 m、深さ0.21 m。平面形は楕円形が想定される。断面形は皿状である。

ピット(第11図)

詳細は、表3にまとめた。

遺構	重複関係	規模	平面形	柱状の有無	出土遺物	備考
P-23	なし	長軸0.5 m、短軸0.35 m、深さ0.3 m	楕円形	無	なし	第11図
P-24	なし	長軸0.6 m、短軸0.5 m、深さ0.15 m	楕円形	無	なし	第11図
P-25	なし	直径0.35 m、深さ0.2 m	円形	無	なし	第11図
P-26	なし	直径0.4 m、深さ0.17 m	円形	有	なし	第11図
P-27	なし	直径0.4 m、深さ0.24 m	円形	無	なし	第11図
P-28	SK-012→P-28	直径0.4 m、深さ0.21 m	円形	無	なし	第11図
P-29	なし	直径0.48 m、深さ0.11 m	円形	無	なし	第11図
P-30	なし	長軸1.0 m、検出部分の短軸0.6 m、深さ0.26 m	長方形	有	なし	第11図
P-31	なし	検出部分の長軸0.7 m、短軸0.7 m、深さ0.1 m	楕円形	無	なし	第11図

表3 令和2年度本調査ピット観察表

その他出土遺物(第12図)

表探遺物を報告する。2は須恵器甕の胴部片である。調整は外面平行タタキ。焼成は良好。色調は灰白色。胎土は砂粒、白色粒を含む。

3 まとめ

今回の調査では、遺跡の南西端を検出した。調査範囲は、調査区南側にある小糸川に向かって傾斜していく地形であり、そのなかの微高地上に遺構が分布する。遺物量は調査面積に対して非常に少なく、遺構の分布も希薄である。しかし、令和元年度本調査のSD-008から出土した玉は混入の可能性が高いが、付近に古墳や墓などの遺構がある可能性が指摘できるのではないだろうか。

これまでの調査の結果と合わせてみると遺跡の中心は館山自動車道の調査範囲である。遺跡の南側は、遺構の分布が希薄で、小糸川に近い部分は沼沢地であったことがわかる。調査を進めていくことで、遺跡内の遺構分布状況が明らかになっていく。今後の遺跡範囲を検討するうえで大きな手掛かりとなるだろう。



1. 調査前風景 (北→)



2. ③トレンチ完掘 (北→)



3. 重機による掘削状況 (北→)



4. SD-001完掘 (北西→)



5. SD-002・003完掘 (北東→)



6. 作業風景 (北→)



7. SD-009・010完掘 (東→)



8. SD-011・012完掘 (南→)

図版2



1. 令和元年度調査区遠景（北東→）



2. 令和2年度本調査遺構確認状況（南西→）



3. SPC-SPC'（北西→）



4. SD-016・017周辺（南東→）



5. 土坑周辺（南東→）



6. 完掘状況（北西→）



7. 完掘状況（東→）



8. 調査風景（南→）



1. 第7图1



2. 第7图2



3. 第7图6



4. 第7图9



5. 第7图10



6. 第7图13



7. 第10图1



8. 第12图1

報 告 書 抄 録

ふりがな	きみつし みのうなかごういせきだいごちてん							
書名	一君津市一 三直中郷遺跡第5地点							
副書名	市道八重原線道路新設改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者	曾我高英子							
編集機関	君津市教育委員会							
所在地	〒299-1192 千葉県君津市久保2丁目13番1号							
発行年月日	西暦 2022 年 (令和 4 年) 3 月 25 日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地 系北緯	世界測地系 東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
<small>*****</small> 三直中郷遺跡 <small>*****</small> 第5地点	<small>*****</small> 千葉県君津市三直 <small>*****</small> 字本郷 356 番 2 住 か	12225	KT073	35° 18' 1713"	139° 56' 1987"	[確認] 2018 年 9 月 7 日～ 2018 年 10 月 11 日	712 /7,803.84 ㎡	市道八重 原線道路 新設改良
						[本調査 (1)] 2019 年 1 月 15 日～ 2019 年 3 月 6 日	884.3 ㎡	
						[本調査 (2)] 2019 年 11 月 14 日～ 2020 年 1 月 9 日	1,612.76 ㎡	
						[本調査 (3)] 2021 年 1 月 25 日～ 2021 年 2 月 17 日	220 ㎡	
						[確認] 2021 年 6 月 21 日～ 2021 年 6 月 30 日	10 /103.44 ㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
三直中郷遺跡第5地点	包蔵地	縄文時代、 古墳時代、 奈良・平安 時代、近世	古墳時代溝跡 2 条、奈良・平安時代溝 跡 15 条・土坑 16 基・ピット 31 基		縄文土器、古墳時 代土師器・玉、奈良・ 平安時代土師器・ 須恵器、近世古銭		遺構密度が低く、今回の調査区が 遺跡の南西端である可能性が高い。	

令和4年3月18日 印刷
令和4年3月25日 発行

— 君津市 —
三直中郷遺跡第5地点

市道八重原線道路新設改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 君津市建設部
君津市教育委員会
君津市久保2丁目13番1号
印刷 有限会社アドメイクス
千葉県木更津市清見台東2-19-16
